

# 認定!

趣味乃  
しゅみのたつじん  
達人



加藤 絡さん

(一宮市老人クラブ連合会副会長)

## 素朴で味わい深い 郷土玩具に魅せられて



「子どもの頃にこうした玩具で遊んだ思い出が、今も忘れられない」と、郷土玩具のコレクシオンに眼を細める加藤絡さん。  
三重県長島町で生まれ育ち、就職で愛知県に。その頃、旅行先の四国で「奉



公さんという張り子人形を見て、その素朴さに魅了されました。それがコレクシオンのきっかけです」  
それから40年以上にわたって、郷土玩具を蒐集し続けています。  
加藤さんのモットーは、  
「できる限り現地に足を運び、作者と交流を持って購入すること。」「一つの玩具に、庶民の歴史があ



り、願いが込められています。それを掘り下げるのが楽しいんです」  
「あくまで趣味の範囲で」とは言うものの、集めた郷土玩具は地元愛知を中心に、約500点以上におよびます。「笠寺観音の戸部カエル、犬山のでん

でん太鼓、竜泉寺の馬笛……。どれも手作りのあたたかさがあります」  
山車からくりの伝統がある愛知県。「郷土玩具にもからくりの要素があります。そういう地域性も面白いですね」  
玩具ではありませんが、

地元の旧尾西市(現一宮市)で昔から作られている土鈴も、250点以上のコレクシオンがあります。

「時には、公民館などに依頼され、展示をすることもありますよ」

加藤さんは行動派であり多趣味。旅行のほか、音楽教師だった経験を活かし、自宅でリコーダーやハーモニカを教える活動も行っています。

「80代の高齢者から、20歳そこそこの女の子までが集まって、一つの曲を合奏します」。音楽を通して、多世代交流の輪が広がっています。

「これからも、元気に趣味を楽しんでいきたいですね」